



平成23年10月14日（金）放課後の職員室のテーブルには、**直径30cmクラス**の巨大なシイタケが積み上げられていた。学校林で収穫されたシイタケである。「**今、シイタケがものすごいことになっている**」という話を聞き、翌日、中学の嶋田先生と学校林に行ってみた。

学校林の入り口付近は、いろいろな「**つる植物**」が木を覆い隠すように生えていた。これらの植物は、森林をマントのように風や寒さから守る効果があることから「**マント群落**=森のマント」と呼ばれている。学校林の紅葉はまだ見られなかったが、マントの一つである**カラスウリ**の真っ赤な実が、きれいなアクセントになっていた。

入り口から奥へ進んでいくと、「佐野高附属中 椎茸栽培実習中」という看板が見えてきた。「ほだ木」が数十本並んでいる。**現在の高校1年生**が附属中2年生の時に菌を打ち込んだものが、ようやくシイタケに成長したのである。ずいぶんと時間がかかるものだ。しかし、肉厚で見るからにうまそうなシイタケたちである。

その晩、学校林のシイタケを肉や野菜と炒めて試食してみたが、適度な歯ごたえとうまみが凝縮されていて、すこぶる美味であった。シイタケは一年中出回っているが、旬は春の3月～5月と**秋の9月～11月**と言われている。これはりっぱな**秋の味覚**ではないだろうか。

